

ホーム名：片町苑 3F					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所全体として介護の方向性となるべき姿を元に理念を設け、内部研修を通し全職員と共有し具現化に努めている。新入職員にはその都度個別にプリントを渡し指導し理念の共有を図っている。またフロアの玄関に提示することで、外部の方にも認知して頂いている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常的な挨拶は勿論、コロナ禍のため参加頻度は少ないが自治会行事の地車、盆踊り、地藏盆には利用者と共に参加し、葬儀、総会、慰安旅行等には職員が地域の一員として参加している。また毎月の地域清掃にも参加し、1年を通してお付き合いを頂いている。2か月に1度の運営推進会議にも書面にて毎回ご参加頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から(清掃の際など地域活動の中でも)高齢者についての日常的な相談や施設利用等についてのアドバイスをを行っている。また、自治会役員が地域防災に対し熱心であり、大規模災害などを想定して、医療法人の立場から様々な面で地域と連携が取れることを話し合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対応として書面にて2か月に1度の割合で定期開催し、自治会を始め、地域包括、ご利用者、利用者のご家族等に日々の苑での生活や行事、利用者の動静、地域の行事など報告を行っている。また、コロナ感染に関する状況、ご利用者や職員のワクチン接種の状況等も報告している。この事によりご利用者と地域の繋がりが出来、行事の場面等で良い関係となり利用者や地域とのつながりとなり、暮らし続けられる環境や体制が整っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	不明な部分などは市や区の介護保険課などに電話や訪問にて確認している。連絡を密にとることで、最新情報を得、必要に応じ助言・指導を賜ることで、ご利用者様へのよりきめ細やかな支援に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	事業所独自の方針、マニュアルを整備し、2か月に一度、身体拘束防止に関する研修を行い、全ての職員に意識啓発を行っている。この事により身体拘束を行わない状況を保っている。また実際の利用者に当てはめシミュレーションする事で観察点・気付きを整理することに役立っている。今後も、内外研修受講の機会を積極的に設け、職員への啓蒙活動を継続的に実施することで、意識レベルの底上げを図っていききたい。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画に虐待防止研修を取り入れ、日常的に職員間の情報交換を行っている。また、虐待は勿論、不適切なケアについても意識の統一を図っている。指導や助言に対しては個人・会議・研修等その都度臨機応変に行っている。その他EV内や入口等目に触れる場所に行政機関からの配布物などを掲示し啓蒙活動を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職1か月以内に行う権利擁護研修の他、職員に研修担当者を定め、様々な方面から職員教育に取り組むほか、施設長、ケアマネジャーが社会福祉協議会主催の実践者研修などを受講したり、一部ではあるが職員は外部研修で学ぶ機会を持っている。また、それらで学んだ事は、必ず職場に持ち帰り全職員と共有することで利用者への支援に活かすことができる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、利用約款の詳細な説明を行い、契約者及び家族等が理解・納得をしやすいように対応している。また、利用料金についても事前に見積書を作成している。解約の際も利用者や家族等の心身の状況、希望等を勘案し必要な援助を行っている。また解約後も定期的に必要であれば電話連絡を行いグリーフケアを行っている。		

10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ケアマネジャーを始め職員が日々家族等と意見交換を行い、意見・要望を収集し運営に反映させるよう努めている。その中で片町苑だよりを通し、日常生活の様子をお伝えし意見・要望が伝えやすいよう取り組みをしている。また、記入時直接見えにくい場所であるEVホールに意見箱を設けることで、直接職員に口頭では言いづらいことを文書でお知らせいただける体制を整えている。</p>		
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎朝の朝礼時に日常の「気づき」を伝える時間を設け各職員から小さなことでも、気付いた部分などがあれば気軽に意見を発表出来るようにし反映させている。また、日常的なコミュニケーションは勿論のこと、全体会議、フロア会議、サービス担当者会議、個人面談等の機会を設けている。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>毎月行われる会議を通し、職場に対する要望等を聞く他、管理者は日常的に全職員が向上心を持って働けているかの現状把握に努めている。また、必要に応じ個人面談などの機会を設け、職場環境や条件の整備を検討している。</p>	/	/
13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>着任から3か月間を掛け新人職員に対して3期間の行程で権利擁護や基本技術、応用までレベルを配慮し、担当職員が育成指導を行っている。また、全職員には研修担当者が日々の業務で必要と思われる内容を中心として毎月内部研修を行っている。</p>	/	/
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>都島区内で連絡会を設置し毎月ZOOMなどを活用し定例会を実施する他、日常的に同業者との交流を図っている。また、複数施設で行事等を実施、更なるサービス向上を予定している。また、全国認知症グループホーム協会のホームページなどから情報収集し、サービスの質の向上に繋げている。</p>	/	/

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>重度の認知症のご利用者様には、ご本人の安全を守りつつ、ご本人の行動を極力制限せず安心感や信頼関係が初期の段階で築けるように、受容・傾聴・共感の姿勢で対応している。また、特に急な入居など利用者や家族が抱えている不安、問題を一つでも多く話し、これまでの経過・背景の把握に努め打開策や介護方法を提案することで、安心して入居頂けるように対応している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居当初より日々の生活状況などをこまめに、来苑時や電話で伝え、ご家族の不安軽減に努めている。また問合せや見学時から、受容・傾聴の姿勢を保ち、家族が抱えている不安や罪悪感を軽減し、これまでの経過や背景の把握に努め打開策などを相談しながら対応の提案を行っている。施設入居に対しての本人の不安を軽減し、家族に安心していただける関係が初期の段階で築けるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に</p>	<p>医師への相談を始め、状況に応じて法人全体で対応できるような体制を整え、検討している。また、適切なサービスの紹介や申込の支援などもしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>身体や認知症の状況・これまでの生活歴・背景の把握に努めた上で互いに理解していく姿勢を大事にしている。日々の体操を始め、生け花や習字、脳トレ、歌唱などのレクリエーションを行い楽しい時間を共有している。また洗濯たみやシーツ交換等の日常生活で出来る事をして頂きながら、ホームで生活する一員としての関係づくりに努めている</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族等来苑時は勿論のこと、電話や毎月郵送している手紙や写真で利用者の状態を伝える等、情報交換を働きかけることで、共に本人を支えていくという関係を築いている。またケアマネジャーを中心に家族に対して定期的に本人や生活に対する要望をお聞きするほか、家族として介護に関わりを持って頂いたりしている。外出や外泊の希望があれば積極的に支援している。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域の買い物や公園への外出、自治会行事等への参加を積極的に行っている。また、入所後も多くの親族や友人の面会者が訪問されている。施設入所が理由で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、面会や外出のご希望には極力お応えできるよう支援している。またスマートフォン等を利用したビデオ通話等も随時お勧めしている。</p>		
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日々のレクリエーションを通しての関係づくりは勿論、リビング等でTVを見ている時や食後のだんらんの時に職員が会話を広げたり、間に入る等して利用者同士の関係が心地よくなるよう支援している。また、各利用者の個性を把握し、トラブルが起こらない様事前に配慮している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院された場合、定期的に訪問、面会、必要時は食事介助に行くなど、のできるだけ早い退院に向けた支援を行っている。また、退院後当苑へ帰ってきていただけるようできる限り居室を空け対応している。また、サービス終了時にはいつでも立ち寄っていただけるようご本人やご家族に声をかけている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の業務の中で、各職員が利用者一人ひとりとコミュニケーションをとり、各利用者に担当職員を割り当て本人の意向や思い、悩んでいる事などを把握している。また、フロア会議やカンファレンス、サービス担当者、会議職員間の会話で、随時情報交換を行い、利用者にとって最適なケアの実現を目指し話し合いを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時には、本人や家族から出来るだけ多くの情報を伺い、生活歴や本人を取り巻く背景・嗜好・生活リズム・習慣・生活環境の把握に努めている。入居後は、個人カルテに意向を含めた情報やケアプランを通じた経過観察などを記録し、全ての職員が共通の情報を把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	睡眠状態、排泄の頻度、食事ベース等、利用者一人ひとりが違う為、個人カルテに詳しく記録することで、各職員が把握している。また、毎日の申し送りで、その日の利用者の状態や日内変動等の情報を共有している。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日朝礼にて、日々のケアに対する小さな変化など気付きを他職に伝える時間を設けている。PDCAサイクルを常に意識し、定期的なモニタリングや再アセスメント・サービス担当者会議、状態に応じてのケアカンファレンス等で、本人、家族、介護職員、主治医、担当看護師、計画作成担当者等が、それぞれ意見を出し合い、その要望・意見やアイデアを反映した介護計画をケアマネジャーが総合的に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・介護計画の実施などに関しては、詳細に介護日誌や個人カルテに記録し、全職員が毎日目を通すことで現況を把握している。また、ケアの変更の際には、随時あるいは定期的に課題整理・課題を分析・統合し、随時サービス担当者会議・カンファレンスを実施することで情報を共有し、提供するサービスにバラツキのない様	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「医療連携」や「個別ケアサービス」など本人やご家族の状況に応じて柔軟なサービスを提供できるよう支援法人内の持てる能力で対応できる事柄については積極的な姿勢で取り組んでいる。また他法人についても、必要に応じて泌尿器科・皮膚科等の専門医を受診し、必要な医療が受けられる支援をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園と隣接する公園などへの散歩時、園児との交流や、地域自治会役員の皆さんと日ごろから連絡を頂き、地域の地車、盆踊り、地蔵盆や婦人会が開所されている「ふれあい喫茶」などへお誘いを頂いたりしている。	
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、協力医療機関より看護師が日常的な健康管理を行い、医師・看護師と事業所の間には盤石な連携体制がとられている。また、協力医療機関が同法人の救急指定病院ということもあり、24時間いつでも適切な医療を受けられるよう支援している。入所時にかかりつけ医を同法人の病院に変更を希望されるケースが大半を占めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	常勤看護師が勤務しており、日常的な体調の管理を行い、些細な変化に対して早期発見早期対応に繋がっている。毎週協力医療機関より看護師が訪問し、日々の健康状態を記録や職員の報告から判断し、適宜処置や受診につなげている。また、担当看護師が外来患者担当の為、苑で得た各利用者の情報を協力医療機関の受診時にいかされ	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先がほぼ同法人内の病院の為、常勤医や各階詰所の師長・医事相談室が、介護職員と日頃から定期受診・臨時受診時・会議や日常業務の中で連携を取り、情報交換を行っている。また、日頃からお見舞いや詰所を訪問等の機会を設け、本人や家族の不安解消を支援することに努めている。	

33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に「重度化における指針」「延命に対する意思決定書」を用い、苑や法人の対応を詳細に説明し、入所後の対応についてご本人やご家族の明確な意思が確認できるようにしている。また、「延命に対する意思決定書」の見直しや変更など、個別面談時などの機会を通じ、都度相談に応じる体制を整えている。また実際に重度化や終末期になりうる場合、早期に本人・家族・関係医療機関・チームでできることを話し合い、共有しこまめな支援ができるよう取り組んでいる。</p>		
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>協力医療機関が救急病院の為、常時救急対応が可能なベッドの確保がされている。また、苑内で緊急事態の連絡や対処方法などを取り決めている。また、内外研修を通じ学ぶ機会を設けている。AEDを配置し対応している。</p>	/	/
35 13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防機関に参加していただき避難訓練(内1回は夜間の避難)を実施しており、消防機関からの助言に基づき周知徹底している。また、自治会を通じ取得した地域の災害対策情報や非常口・避難経路・避難方法等を職員に定期的に周知することで、不測の事態に備えている。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	<p>14</p> <p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>内部研修やケアカンファレンスにおいて、認知症があっても、その人らしく生活して頂ける様配慮していくのがグループホームの役割であることを確認しあっている。それにより、それぞれの利用者が持つこだわりを一方的に非難せず、人格の尊重やプライバシーの確保に努め、対応している。</p>		
37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>受容・傾聴・共感の姿勢を心掛け、ご本人の意向を伝え易い雰囲気作りに努めている。また自己決定できるような環境作りと積極的な働きかけを行っている。</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>適宜カンファレンスやカルテに記録することにより、日々の認知症状や生活状態を把握し、ご本人の希望やその日の体調を考慮し、散歩やレクリエーション、家事手伝いなど、一人ひとりが楽しく穏やかに過ごすことができるよう支援している。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>季節に応じた服装をご家族の協力のもと揃えて頂き、極力御本人が選んだ衣服を着ていただき生活リズムの活性化を図っている。また、希望者には訪問理容による整容も実施している。</p>		
40	<p>15</p> <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日々のメニューは栄養士管理の元、様々な工夫や季節を感じる食事を提供している。また、3時にはおやつ時間を設け、その中でも月1回はおやつレクを実施し手作りおやつを利用者と一緒に調理している。また、行事の時等に、特別料理を準備しフルコース形式やバイキング形式、焼き立て、出来立てなどを提供している。</p>		
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>生活表に各利用者の食事量、水分量を記録し、医師や看護師などと状況を把握しながら、栄養補助剤やアルカリイオン飲料水などで不足分を補い、小まめな声掛け等介護面での支援も行っている。また栄養バランスに関しては、法人の管理栄養士の助言を得ながら調整しており、アレルギー等個別対応も行っている。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>必要な方は訪問歯科診療や受診を行い、口腔内の清潔保持に努めている。毎食後、口腔ケアを実施し、自己にて口腔ケアができない場合は、磨き残しの支援など一人ひとりの状態に合わせて行っている。</p>		
43	<p>16</p> <p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>尿意、便意のある方は、自身のタイミングでトイレに行き、自尊心に配慮しながら、パット汚染の確認や交換の介助を行っている。その他の利用者に関しては、排泄表を活用し各利用者の排泄パターンにより可能な限りトイレでの排泄を維持出来るように支援している。</p>		
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>日々積極的な水分補給に努め、排便状況の把握、献立の工夫、散歩や体操で身体を動かすなどで働きかけを行ったり、また看護師により腹部の状態確認等を行い、必要場合は主治医に相談し、便秘薬等を処方してもらっている。</p>		
45	<p>17</p> <p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人の意思確認を行い、各利用者のADLに合わせて2人介助にて湯船に浸かって頂く等個別に支援している。支援している。また、毎回数種類の入浴剤や温泉のもとを用意し好きなものを選んで頂く事により楽しみを持って頂いている。</p>		
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>職員が、個々の生活習慣を把握し、各利用者の気持ちに寄り添い日中の生活を楽しんで頂けるようなレクリエーションの声かけを行う事で生活リズムを整え、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。また、適宜医師に相談し促眠剤なども利用している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>各利用者別に薬ファイルを設け、決められた職員がセットしチェック表に押印、他者の薬と混同しないように個別管理している。配薬した職員はチェック表の別欄に押印し、ファイルのダブルチェックを行い、服薬ミス防止している。</p>		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援を</p>	<p>日々の体操や各利用者に合わせて興味のあるレクリエーションのほか、後片付けや洗濯物整理などの役割を持って頂くことで、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>現状コロナ対策の為外出行事は行っていないが通常であれば、夏の暑い日や、冬の寒い日はドライブを行い、その他気候の良い時等は買い物・散歩などを通じ、生活リハビリ・日光浴・外気浴等を頻回に行っている。また、誕生会や季節行事など出来るだけ季節や環境を感じられるよう外出行事を行っている。また、家族との外出には、車いすの貸し出しや食事調整等の支援を行っている。</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>可能な限り本人にお金を持っていただけるよう支援することで精神的な安定を図り、利用者の力やご希望に応じた支援を行っている。また、外出行事の際にはコンビニ等でご希望の商品を選び、支払いをして頂くことをお任せしている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>絵手紙を制作できる方には書いて頂き、職員が書いている手紙と同封し、家族に郵送している。利用者によっては携帯を所持されており、家族と連絡を取られているが、使い方が分からない時は職員が援助している。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食事や「くつろぎ」の時間などリビングにてご利用様が若いころの唱歌などのCDや時代劇や歌謡ショーなどのDVDを中心に流し、ご利用者様同士のコミュニケーションのきっかけとしている。また、利用者ご自身がレク等で作成した作品や、毎月の行事に合わせて担当者が掲示物をご利用者様と作成し掲示している。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>其々に決められた席があり、リビングは、ダイニングテーブルと椅子、ソファを配置し、入居者同士で談笑したり、DVD鑑賞、TV観賞するなど、入居者のくつろぎの場となっている。また、ベランダやEV前にソファを配置し、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはご家族などに依頼し、以前から使い慣れたなじみのものや本人のお気に入りのものを出来るだけ持ち込んでいただいている。また、利用者が安全に過ごせるよう、家具の配置等に配慮している。また、ご本人の写る写真などは積極的に居室に掲示し、良い思い出の補完に努めている。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内は全面バリアフリーであり、車いす、歩行器等の通行に支障のない幅員を確保し、滑りにくい塩化ビニールにて転倒の未然防止にも配慮している。なお、厨房は入居者とスタッフが協働できるスペースとレイアウトになっている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない